

食の外部化に関する研究

第一報 外食の一般的状況

谷田沢 典子・西 脇 泰子
松 永 久子・草 野 愛子

A Study on the Socialization of Dining.

I. A General Situation of Meals Away from Home

Noriko Yatazawa, Yasuko Nishiwaki
Hisako Matsunaga and Aiko Kusano

はじめに

食の外部化は、近年の食生活の変化の中でもきわだって目立ったものである。従来、家庭の食生活としては、材料のみを購入または自給し、調理供食は家庭内で行われ家族は揃って共食するのが一般的なパターンであった。しかし、近年調理済み食品や半加工食品が多数食卓に供されるようになり、材料宅配、市販弁当も盛況になり、家族揃っての、また外出先での個々の外食もいちじるしく増加してきた。

食生活は、人間の生存にとってもっとも基本的なものであり、生物的欲求に基づいて行われ、食料の生産によってその範囲を限定されるものであるから、その変化は決して激しいものではなかった。家庭内で、時には家族揃って生産に加わり、家族によって調理され、供食され、従って家族は揃って同じものを食べる——食物をわかちあい、そこに互いのコミュニケーションが成立する——それが食生活ひいては家庭生活の本来のあり方である、という長年の慣習と経験的認識は、少くとも今の中高年の食生活の倫理となって存在している。共食の減少、食の外部化は家族の崩壊の一因であるとする声もたかい。

食の外部化、なかでも外食の増加は、生活全般の変化の中で生じているもので、その背景には、小家族化、余暇時間増、主婦就労の増加、遠距離通勤学の増加、サービス業の増加、食産業の発達等々の社会構造的変化や家庭生活の変化、さらには生活者の意識の変化等さまざまな要因があり¹⁾、短絡的因果関係をいうことはむづかしい。しかし、外食増が上のような意味で家族の食生活はもちろん、食事観、ひいては家族のあり方にも大きい影響を与えるであろうことは充分予想される。

本研究は、そのような視点に立って、食の外部化が家庭生活に与える影響についての研究を多角的継続的に行おうとするものである。なお、第一報では外食の一般的状況について報告する。

外食の一般的状況

1 外食の定義

外食をどのようなものとしてとらえるかについてはいくつかの問題点がある。いま食生活のプロセスを「食事計画」「献立」「材料入手」「調理」「配膳」「喫食」に大きくわけ、それぞれが家庭内もしくは家族によってなされるか、または家庭外もしくは家族以外によってなされるかによって分類すると表1のようになる²⁾。

表1 食生活のプロセス

	内 食		境 界 食			外 食	
	1	2	3	4	5	6	7
	家庭内食	手作り弁当	材料宅配 素材セット など	市販弁当 そう菜 ファーストフード など	出配達前 弁当 など	家庭外食	学校・職場 給食など
食事計画	内	内	内	内	内	内	外
献立	内	内	外	外	外	外	外
材料入手	内*・外	内*・外	外	外	外	外	外
調理	内	内	内	外	外	外	外
配膳	内	内・外	内	内	外	外	外
喫食	内	外	内	内	内・外	外	外

内は家庭内もしくは家族によってなされる場合

外は家庭外もしくは家族外によってなされる場合

* 材料自給の場合

近年の食生活はきわめて多様であり、「食の外部化」³⁾、「外食の内食化,内食の外食化」⁴⁾などの言葉に示されるように、家庭内食であっても表1の1, 2のようにはっきりと区分されない場合も少なくない。たとえば、「食事計画」「献立」をテレホンサービスを利用したり、スーパーの「今日のお買い得品による献立」を見てきめたりする例もある⁵⁾。また、材料のほとんどが加工品で構成された献立にきざみキャベツと味噌汁を加えた食事は1か4か判然ときめがたい。従来論議の中でも3, 4, 5領域は「境界領域」「中食」と呼んで区別したり⁶⁾、総務庁家計調査でも、「外食」は家庭外でつくられたものを家庭外で喫食した場合をさし、調理品の購入とは区別している。

何を内食とし何を外食とするかは、むしろその論ずる目的によって異なってくるといえるが、本研究においては、表1の分類を一応の基準において外食をとらえ、6の家庭外において、家庭外で調理された食事を自分で選択して食べる場合を「外食」とした。

2 外食の増加

外食は、それが個々の家族の個人的行為としてなされることが多いため全面的な把握がむづかしい。しかし、その概況を見るものとしていくつかの指標や調査結果がある。そしてそのいずれもが近年の

外食の著しい増加を示している。

(1) 家計調査⁷⁾

家計調査は、総務庁統計局が全国約8,000の世帯を対象に、毎月の家計の収支実態を調査しているもので、生活の動向を金銭収支の側面から見るものとしてもっとも大きい統計資料である。調査対象、費目などに変動はあるが長期間にわたる比較も可能である。

昭和58年の外食費は、消費支出の伸びを上まわり、50年以降ほぼ実質増加している。すなわち、昭和58年の調査全世帯（平均世帯人員3.76人、世帯主の平均年齢46.2歳）の消費支出は、1世帯あたり1ヶ月平均259,521円で前年に比べ名目で2.5%、消費者物価上昇分を除いた実質で0.6%の増加になっている。うち、食料費は72,173円で前年に比べ名目で1.2%の増加であるが実質では0.9%の減少となっている。しかし、外食費は名目4.4%、実質1.7%の増加となり名実ともに全消費支出および食料費の伸びを大きく上まわっている(図I)。

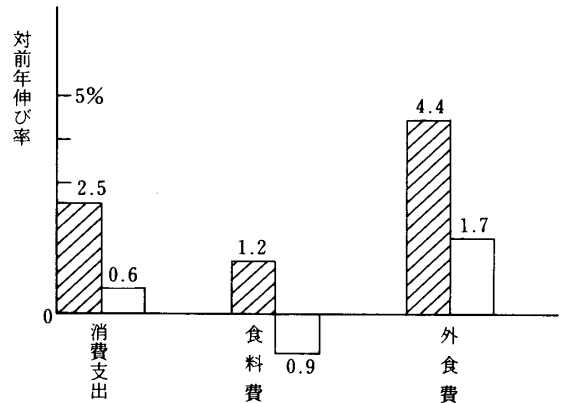


図1 昭和58年消費支出、食料費、外食費支出の対前年伸び率

資料：家計調査年報58年

表2 家計支出における外食費の動向

(単位：円)

年	世帯人員	消費支出	食料	食料			外食	外食		エンゲル係数	外食比率*	一般外食比率**	消費支出に占める外食費の比率
				調理食品	主食的調理食品	他の調理食品		一般外食	学校給食				
38	4.30人	40,246	15,571	482	44	438	1,018	867	151	38.7%	6.5%	5.6%	2.5%
39	4.29人	44,481	16,932	511	49	462	1,113	949	164	38.1%	6.6%	5.6%	2.5%
40	4.26人	48,396	18,454	570	56	514	1,226	1,042	184	38.1%	6.6%	5.7%	2.5%
41	4.19人	52,516	19,593	616	67	550	1,338	1,128	210	37.3%	6.8%	5.8%	2.5%
42	4.15人	57,071	21,004	668	79	589	1,517	1,277	240	36.8%	7.2%	6.1%	2.6%
43	4.07人	63,607	22,585	744	94	650	1,783	1,525	258	35.5%	7.9%	6.8%	2.8%
44	3.99人	70,386	24,345	828	118	710	2,072	1,789	284	34.6%	8.5%	7.4%	2.9%
45	3.98人	79,531	27,092	968	140	828	2,413	2,062	351	34.1%	8.9%	7.6%	3.0%
46	3.96人	87,475	29,162	1,118	159	959	2,663	2,277	386	33.3%	9.1%	7.8%	3.0%
47	3.93人	96,026	31,357	1,272	194	1,079	3,101	2,692	409	32.7%	9.8%	8.6%	3.2%
48	3.91人	112,116	35,789	1,568	237	1,331	3,625	3,159	466	31.9%	10.1%	8.8%	3.2%
49	3.90人	136,024	44,350	1,863	259	1,604	4,443	3,797	646	32.6%	10.0%	8.6%	3.3%
50	3.89人	157,982	50,479	2,218	318	1,900	5,174	4,415	760	32.0%	10.3%	8.8%	3.3%
51	3.84人	174,790	55,308	2,527	403	2,124	5,877	4,990	887	31.6%	10.6%	9.0%	3.4%
52	3.82人	190,497	58,660	2,788	474	2,314	6,520	5,547	973	30.8%	11.1%	9.5%	3.4%
53	3.83人	201,715	60,896	2,958	525	2,433	7,215	6,163	1,052	30.2%	11.9%	10.1%	3.6%
54	3.83人	214,697	62,769	3,216	608	2,608	7,952	6,806	1,146	29.2%	12.7%	10.8%	3.7%
55	3.82人	230,568	66,923	3,877	719	3,158	8,467	7,257	1,210	29.0%	12.7%	10.8%	3.7%
56	3.79人	240,014	69,183	4,115	770	3,345	8,903	7,546	1,357	28.8%	12.9%	10.9%	3.7%
57	3.78人	253,169	71,342	4,489	888	3,600	9,593	8,176	1,416	28.2%	13.5%	11.5%	3.8%
58	3.76人	259,521	72,173	4,570	983	3,587	10,018	8,544	1,473	27.8%	13.9%	11.8%	3.9%

資料：総務庁『家計調査年報』（全国全世帯、用途分類、1カ月あたり）

* 外食比率…食料費に占める外食費の比率

** 一般外食比率…外食費より学校給食費をひいた外食費の比率

これを歴年の動向について見ると表2、図2のようになる。この20年間、外食費は消費支出、食料費支出の伸びを上まわり、エンゲル係数の減少にもかかわらず消費支出に占める外食費の比率は増加し、食物費に占める外食費の割合は2倍以上になっている⁹⁾。なお、外食は家庭外で個人の行為としてなされるため家計調査でも正確な把握がむづかしい。夫の小づかいでの外食支出は外食費として計上されないし、外食産業の売上高との差を見ても実際にはこれをはるかに上まわるとみてよい。

(2) 国民栄養調査⁹⁾

厚生省が戦後の国民栄養改善のために行ってきた調査で、昭和27年の栄養改善法の制定によって法に基づく調査となり全国約20,000世帯を対象に年一回行われている。

この調査による昭和46年以降の外食の傾向は表3、図3のようになる。調査期間の3日間に外食をしたものの比率は、若干の変動はあるが年々増加してきている。ただし、ここでの伸びが家計支出またはあとでのべる外食産業の伸びほどでないのは、この調査が祝祭日、冠婚葬祭その他特別に食物摂取に変化のある日をさけているため、外食はむしろ日常以外の場でふえていると考えられる。

(3) 外食産業調査¹⁰⁾

上に見たものはいずれも外食者の側から外食増を見たものであるが、これを供給側から見ると表4～6のようになる。店舗数では1960年から'83年までに3.7倍に増加し酒場、バーを除く飲食店では3.3倍、販売額では実に13倍と家計支出における外食費ののびをはるかに上まわる増加ぶりである。外食に関する研究や資料はまだ少ないが、なかでもその多くは産業側のマーケティング調査の形でなされており、外食においてもイニシアティブをとっているのは産業界であることを認めざるをえない状況である。

なお、59年10月24日の毎日新聞は、外食業界団体「日本フードサービスチェーン協会」が外食産業の実態をまとめたレポート「外食産業“昨日・今日・明日”」を発表し、その中で、「外食産業の市場規模は58年で17兆円(推定)、一ヶ月に1回以上夕食を外食する専業主婦は56%」と述べていることを報じている。その他の資料¹¹⁾を見ても、外食産業はなお一層の発展をめざしてきめ細かい戦略をたてている。

(4) その他

余暇開発センター「レジャー白書」84年版によると、レジャーのベストワンは家族そろっての外食である(2位ドライブ、3位旅行)。調査結果から推定すると去年1年に5,700万人が外食したことに

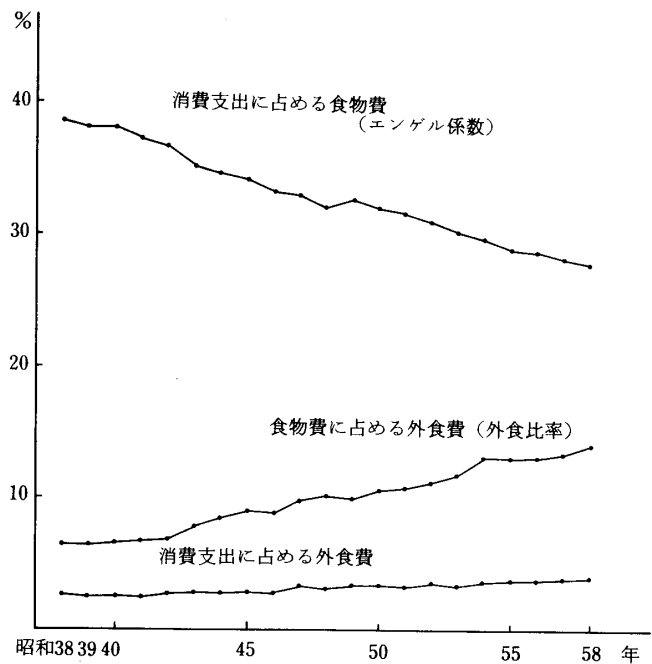


図2 エンゲル係数、外食比、消費支出に占める外食費の動向

資料：家計調査

表3 外食の傾向(年次別) (%)

総数	男												女													
	昭和46年	47年	48年	49年	50年	51年	52年	53年	54年	55年	56年	57年	昭和46年	47年	48年	49年	50年	51年	52年	53年	54年	55年	56年	57年		
	なし	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
あり	90.1	92.6	91.5	94.8	94.4	94.5	93.8	93.9	94.4	93.9	93.8	94.0	94.0	95.3	96.5	96.0	98.0	97.7	97.1	97.3	97.1	97.4	96.9	97.1	97.3	
1回	9.9	7.4	8.5	5.2	5.6	5.5	6.2	6.1	5.6	6.1	6.2	6.0	6.0		3.5	4.0	1.9	2.3	2.9	2.7	2.9	2.6	3.1	2.9	2.7	
2回		4.1	4.4	3.0	3.3	3.4	3.6	3.5	3.2	3.4	3.4	3.2	3.2		2.2	2.2	1.2	1.5	2.1	1.7	1.8	1.7	1.9	1.7	1.8	
3回		1.6	1.7	1.2	1.2	1.0	1.2	1.3	1.1	1.3	1.2	1.2	1.2		0.5	0.8	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.4	0.6	0.7	0.5
		1.7	2.4	1.0	1.1	1.1	1.4	1.2	1.3	1.4	1.7	1.6	1.6		0.8	1.0	0.3	0.4	0.4	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.4	
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
なし	47.6	48.1	46.7	43.4	42.8	43.6	41.1	40.9	39.7	41.6	38.8	37.7	37.7	61.6	65.6	63.6	57.9	57.1	56.7	56.3	54.2	53.9	54.4	52.1	52.7	
あり	52.4	51.9	53.3	56.6	57.2	56.4	58.9	59.1	60.3	58.4	61.2	62.3	62.3		34.4	36.4	42.1	42.9	43.3	43.7	45.8	46.1	45.6	47.9	47.2	
1回		11.3	12.8	11.0	11.5	12.1	11.2	11.1	11.3	11.0	11.7	11.2	11.2		15.3	15.7	13.4	14.0	14.5	14.8	15.5	15.4	14.7	14.7	15.2	
2回		9.8	9.1	9.8	12.9	9.8	9.8	9.9	10.3	10.3	11.0	11.5	11.5		6.8	7.1	7.3	7.9	10.4	8.3	8.8	8.6	9.0	9.6	9.3	
3回		30.8	31.4	35.8	35.9	31.4	37.8	38.0	38.7	37.1	38.4	39.6	39.6		12.3	13.5	21.4	21.0	18.4	20.5	21.4	22.1	21.9	23.6	22.7	
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
なし	70.9	78.9	76.4	82.5	82.2	82.1	80.5	80.3	80.7	78.8	78.6	79.3	79.3	83.3	87.5	86.5	89.5	89.1	88.5	87.8	87.4	87.6	85.9	85.9	86.5	
あり	29.1	21.1	23.6	17.5	17.8	17.9	19.5	19.7	19.3	21.2	21.4	20.7	20.7		12.5	13.5	10.6	10.9	11.5	12.2	12.6	12.4	14.1	14.1	13.5	
1回		13.4	14.2	11.6	11.7	12.1	12.8	13.4	12.6	13.6	13.9	13.8	13.8		8.8	9.1	8.0	8.3	8.8	9.3	10.0	9.5	10.7	10.3	10.5	
2回		4.3	4.3	3.5	3.5	3.2	3.7	3.7	3.9	4.4	4.1	3.6	3.6		2.2	2.3	1.5	1.6	1.7	1.8	1.7	1.9	2.0	2.4	2.0	
3回		3.4	5.1	2.4	2.6	2.6	3.0	2.6	2.9	3.2	3.4	3.4	3.4		1.5	2.1	1.1	1.0	1.0	1.1	0.9	1.0	1.4	1.3	1.0	

資料 国民栄養調査結果, 厚生省公衆衛生局栄養課編「国民栄養の現状」各年

昭和46年は5日間調査のため, 外食のもののみ記入

49年以降の調査基準は同じ

なるとのことである。

また、「国民生活」Vol. 10, No. 1¹²⁾は、「変わる女性、変わる食事文化」としてアメリカの外食状況について紹介している。それによると夕食についての会話は、「今晩何をつくる」から「今晩はどこで食事をしよう」と変わってきており、10年前20%だった外食比率が、1978年には36.7%に増加している。平均して週7回の外食をし、「外食費が食料費の50%をこすのは、80年代前半か後半か」が外食産業の関心のまとであり、今後もおふえつづけることはまちがいないと報告している。

米国における外食と内食の支出の推移は表7のように報告されており、日本の場合をはるかに上まわっている。

外食は、消費者の必要と楽しみ、そして何よりも経済停滞期をむかえた産業の構造的変化による食サービス産業の増加を背景に今後もおふえつづけるであろうことは、どの指標からもうかゞえるところである。

3 外食の状況

外食が増加の一途にあることは先にみたとおりであるが、外食者の外食状況はどのようなものだろうか。

(1) NHKが、全国3,631人を対象に、昭和56年10月23日(金曜日)の食生活を調査した結果によると外食状況は表8のようである。

朝食は89.8%のものが自宅できり、昼食は半数が家庭外で、夕食は88.4%が自宅できっている。

外食の多い昼食について見ると、図4のように出前も含め自宅できりものが48.4%、外できりものが49.6%とほぼ半々である。自宅外の食事では、持参弁当が18.8%と最も多く、ついで会社や学校の食堂利用が10.7%、出前や買った弁当を食べるものをふくめ、勤め先や学校で食事をするものが35.7%と外食の7割をしめている。飲食店や喫茶店、ハンバーガー店などを利用するのは約1割である。

性別、年齢別に昼食状況を見ると表9、図5のようになる。25歳未満では男女の差はほとんどなく80%近くのもの家庭外で食事をするが、20歳未満では男女ともに弁当持参が多い。25歳以上になる

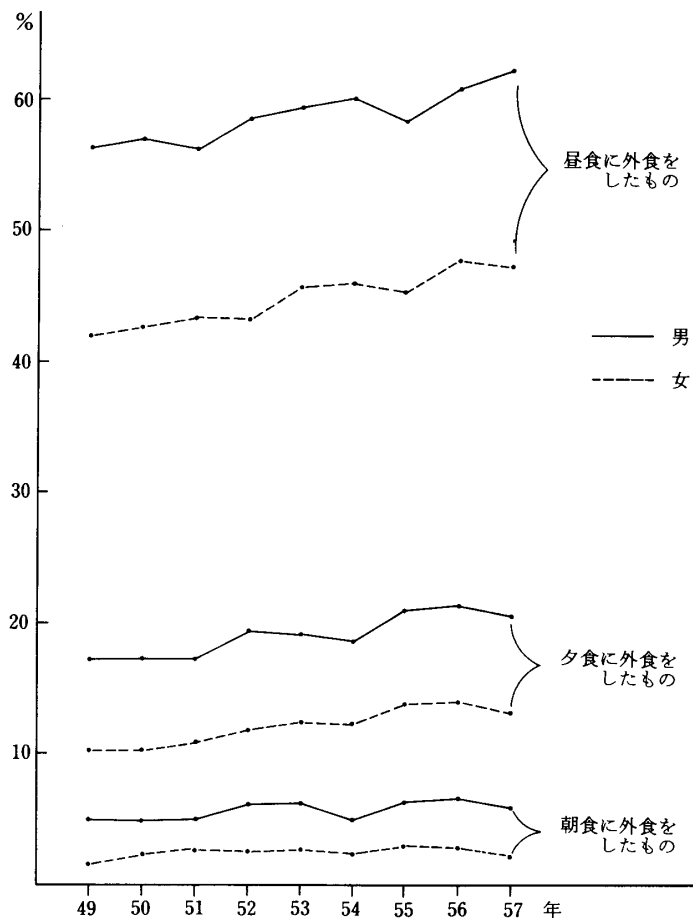


図3 外食の動向, 3日間に外食したものの割合 %

資料: 国民栄養調査

表4 飲食店の数の推移 (店舗数)

	1960年	1962年	1964年	1966年	1968年	1970年	1972年	1974年	1976年	1979年	1982年
飲食店 合計	229,960	242,754	269,043	321,354	371,331	425,971	483,709	542,288	616,001	736,815	838,694
飲食店 (計) (酒場・バー等を除く)	164,753	171,889	189,993	228,165	276,396	317,883	362,675	408,070	456,574	511,759	536,840
食堂・レストラン	67,273	72,250	82,862	131,027	124,458	136,469	157,702	176,399	193,200	212,012	234,999
一般食堂	55,002	58,194	65,883	75,998	76,360	85,438	84,934	91,074	96,094	104,721	120,984
日本料理店	27,046	26,830	27,825	31,967	17,575	15,334	26,367	30,759	34,204	34,349	34,950
西洋料理店	2,348	3,048	3,779	6,170	6,936	8,419	11,579	14,473	16,773	19,495	22,538
中華料理店等	9,923	11,008	13,200	16,892	23,587	27,278	34,822	40,093	46,129	53,447	56,527
そば・うどん店	32,011	30,093	29,910	34,145	30,607	31,238	34,968	36,186	42,025	41,734	41,556
すし店	12,839	15,123	17,508	22,341	26,622	31,338	35,625	39,855	44,020	48,598	49,851
料亭	-	-	-	-	16,094	19,587	11,890	11,597	10,877	9,035	8,193
バー・キャバレー・ナイトクラブ	23,289	29,680	34,304	40,600	43,499	49,432	58,449	66,860	78,169	123,882	161,059
酒場・ビアホール	41,918	41,185	44,746	52,589	51,436	58,656	62,585	67,358	81,258	101,174	140,795
喫茶店	15,048	16,526	19,850	27,233	36,083	50,033	68,146	85,836	106,937	143,040	162,036
その他の飲食店	10,536	11,067	12,038	13,419	42,537	49,218	54,344	58,197	59,515	57,340	40,205

資料：通産省，サービス産業の現状と課題84P203より

表5 飲食店の数の推移 (従業者数)

	1960年	1962年	1964年	1966年	1968年	1970年	1972年	1974年	1976年	1979年	1982年
飲食店 合計	907,252	986,492	1,114,772	1,314,773	1,462,789	1,690,054	1,893,635	2,025,595	2,260,371	-	-
飲食店 (計) (酒場・バー等を除く)	648,267	692,573	782,803	927,971	1,062,850	1,231,988	1,393,836	1,503,964	1,665,577	1,798,193	1,975,117
食堂・レストラン	270,851	294,478	346,994	577,103	515,094	566,841	665,472	722,803	789,572	845,607	985,787
一般食堂	204,618	211,182	243,965	273,135	266,016	298,001	286,695	293,684	311,128	325,482	386,575
日本料理店	138,991	144,966	151,449	167,941	83,816	77,983	135,912	158,078	175,983	181,430	192,012
西洋料理店	23,721	34,440	43,073	62,628	66,240	79,956	104,181	120,017	132,731	151,329	199,191
中華料理店	42,512	48,856	59,956	73,399	99,022	110,901	138,684	151,024	169,730	187,366	208,009
そば・うどん店	89,913	84,124	84,409	98,839	91,666	96,395	111,033	114,561	134,178	140,338	153,542
すし店	53,170	61,171	70,977	88,402	101,958	118,040	133,363	142,240	154,315	156,567	161,922
料亭	-	-	-	-	93,443	116,004	83,267	77,745	73,036	59,805	54,490
バー・キャバレー・ナイトクラブ	155,780	197,738	226,739	267,819	282,319	325,016	362,810	378,991	418,251	-	-
酒場・ビアホール	103,205	96,181	105,230	118,983	117,613	133,050	136,999	142,640	176,543	-	-
喫茶店	73,109	85,219	101,413	133,190	162,640	215,968	271,747	305,619	366,639	444,829	499,524
その他の飲食店	22,233	22,615	27,561	30,437	98,056	118,740	128,944	140,996	147,837	151,047	119,852

(単位：人)

資料：表4に同じ

表6 飲食店の推移(販売額) (単位：百万円)

	1960年	1962年	1964年	1966年	1968年	1970年	1972年	1974年	1976年	1979年	1982年
飲食店合計	409,810	630,463	901,087	1,170,857	1,664,333	2,377,094	3,192,839	4,711,062	6,808,526		
飲食店(計)	317,849	477,336	677,722	879,185	1,271,022	1,813,166	2,430,644	3,592,314	5,156,884	6,876,407	8,852,190
(酒場・バー等を除く)											
食堂・レストラン	135,210	213,316	310,256	574,834	652,603	879,847	1,223,905	1,833,707	2,624,293	3,464,988	4,706,552
一般食堂	96,094	140,312	202,520	240,756	293,638	399,547	437,115	598,404	842,885	1,057,152	1,505,533
日本料理店	74,434	106,317	142,874	175,078	119,674	143,989	291,267	464,837	669,794	887,064	1,108,646
西洋料理店	17,687	37,449	54,534	84,498	112,060	158,710	239,523	380,895	548,924	749,057	1,076,695
中華料理店	21,429	35,555	53,202	74,502	127,231	177,600	256,000	389,572	562,690	771,715	1,015,680
そば・うどん店	33,839	43,434	55,664	74,663	92,244	120,873	169,045	242,541	367,693	480,289	625,946
すし店	29,661	47,462	68,642	95,477	142,769	212,442	293,795	428,323	611,702	796,260	1,010,273
料亭	—	—	—	—	124,843	191,771	177,469	219,767	266,776	293,030	334,547
バー・キャバレー・ナイトクラブ	54,392	99,941	148,985	195,606	271,862	399,450	554,843	822,294	1,172,066	—	—
酒場・ビアホール	37,569	53,186	74,380	96,066	121,449	164,478	207,352	296,454	479,576	—	—
喫茶店	36,148	55,131	80,887	110,797	165,554	264,268	384,339	587,675	905,656	1,337,072	1,702,627
その他の飲食店	8,558	11,678	19,401	23,413	93,010	143,965	182,092	280,300	380,764	504,768	472,243

資料：表4に同じ

表7 米国における外食(家庭外消費)と内食(家庭消費)の推移(国民所得ベース)

(単位：100万ドル)

区分 年次	食料消費支出		家庭消費 (At Home)		家庭外消費 (Away From Home)	
	金額	指数	金額	構成比	金額	構成比
1971	127,650	100.0	94,183	73.8	33,465	26.2
72	135,215	105.9	99,035	73.2	36,180	26.8
73	150,585	118.0	110,254	73.2	40,331	26.8
74	169,650	132.9	124,457	73.4	45,193	26.6
75	189,438	148.4	138,006	72.9	51,427	27.1
76	203,947	159.8	145,939	71.6	58,008	28.4
77	220,138	172.5	156,313	71.0	63,825	29.0
78	230,684	180.7	160,274	69.5	70,410	30.5
79	255,464	200.1	179,379	70.2	76,085	29.8
						100.0
						108.1
						120.5
						135.0
						153.7
						173.3
						190.7
						210.4
						227.4

資料：USDC Bureau of Census

外食産業問題研究会「外食産業の現状と展望」P. 22より

と女子の外食者は急速に減少し男女の外食率に差ができる。再び差が縮まるのは45歳すぎ、ことに55歳以降であるが、25歳未満のときのように縮まらない。男子では30～34歳で外食がもっとも多くなり、以後加齢とともに減少しているのに対し、女子では25歳以降外食者が減るが、その後45～55歳のところで再び増加しあとまた減少していく。二山型の年齢別女子就労率や、余暇時間等女子のライフサイクルに対応した傾向がみられる。

なお、この調査にあらわれた欠食を年齢別性別に見ると図6のようになり、外食の多い20代男子にまた欠食が多くなっている。

外食の費用は表10のように、500円以下が56.3%ともっとも多く、1,000円以上のものは3.3%である。

(2) 先にあげた昭和57年国民栄養調査⁹⁾では、3日間の食事のうち朝食を家でとるものは95.7%、昼食は3回とも外食のもの31.2%を含めて54.8%のものが1～3回の外食をし、夕食は82.9%のものが家で食事をしている(表3)。ここでの外食は弁当を含んでおらず、また3日間の食事についての調査であるため若干数値は異なるが、NHK調査の持参弁当を除く外食者は30.8%になっているので実態に近い数字であると思われる。

性別、年齢別には、表11、図7のようになる。持参弁当をふくまないでNHK調査とは若干異なるが傾向は似ている。15～19歳では、男女差は8.1%であるが、25～29歳で差が開き、45歳以降縮小するのはNHKのカーブと同じである。この調査では40歳50歳の女性の外食率の高まりは見られないが、NHKの調査でも40代の女性は弁当持参者が多いのでそれを考えると、やはり女性のライフサイクルとのかわりはあるのではなかろうか。

この調査では費用はわからないが、外食の内容は表12のようになっており和食、そば、うどんに人気がある。

表8 食事をとった場所

	朝	昼	夕
自 宅 以 上 (含出前)	89.8	48.3	88.4
会 社 や 学 校 ・ 食 堂	2.0	10.7	2.5
〃 (持参弁当)		18.8	
〃 (出前・買った弁当)		6.2	
立ち食いそばやハンバーガー店	0.2	0.4	0.2
飲 食 店	0.5	8.1	4.7
喫 茶 店	0.6	1.3	0.4
電 車 や 車 の 中	0.2		
そ の 他	1.7	4.2	1.7
親 せ き の 家			0.9
近 所 の 家			0.0
友 人 の 家			0.4
と ら な か っ た	5.0	2.0	0.7
わ か ら な い	0.0	0.0	0.1
計	100.0	100.0	100.0

※ 空欄は調査せず
NHK調査 (S.56. 10. 23, 金) より作成

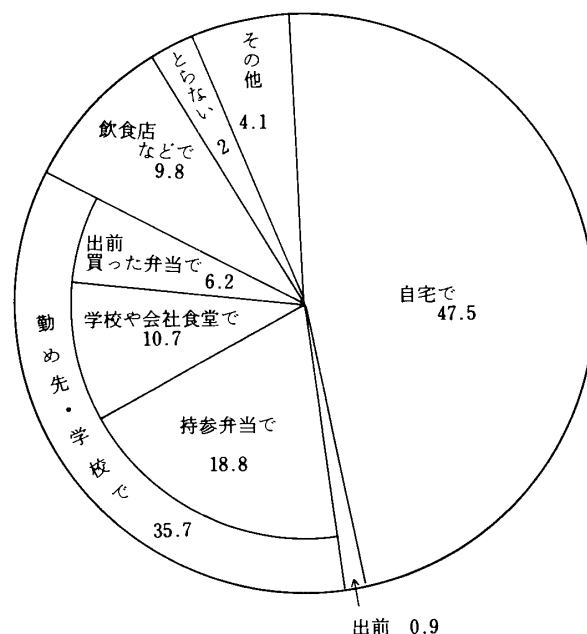


図4 NHK調査による昼食の状況(%)

表9 昼食をとった場所（NHK調査）

回 答	全 体	男 の 年 齢										
		16	20	25	30	35	40	45	50	55	60	70
		19歳	24歳	29歳	34歳	39歳	44歳	49歳	54歳	59歳	69歳	70歳以上
合 計	3,631	159	113	138	204	165	170	165	177	117	145	108
1. 自 宅	47.5	19.3	16.8	19.0	15.1	25.4	25.4	31.9	30.8	45.2	59.0	73.1
2. 会社や学校（持参した弁当）	18.8	46.4	21.2	23.1	30.9	16.0	23.5	20.4	33.1	21.8	10.5	2.0
3. 自宅（出前）	0.9	1.8	0.0	0.0	0.0	1.6	0.8	1.7	0.8	0.0	1.1	1.5
4. 会社や学校（出前，買った弁当）	6.2	5.1	12.4	12.2	12.5	15.9	7.3	6.6	7.4	2.5	1.4	0.0
5. 会社や学校の食堂	10.7	18.3	18.0	22.2	17.5	19.7	18.3	17.1	10.5	13.9	8.5	2.6
6. 立ち食いそば屋，ハンバーガー店	0.4	0.8	1.1	0.0	0.6	0.0	1.5	0.8	1.0	1.1	1.6	0.0
7. 飲 食 店	8.1	4.2	18.7	16.2	15.6	14.0	17.5	13.4	12.5	9.9	11.0	9.2
8. 喫 茶 店	1.3	2.1	2.9	2.7	2.1	1.6	0.7	0.9	0.9	0.6	0.8	0.0
9. そ の 他	4.2	1.5	2.3	3.1	4.4	3.8	4.2	4.8	2.9	4.6	5.0	9.4
10. 昼食はとらなかった	2.0	0.5	6.5	1.5	1.3	2.1	0.8	1.9	0.0	0.4	1.1	2.3
11. わからない，無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0

回 答	全 体	女 の 年 齢										
		16	20	25	30	35	40	45	50	55	60	70
		19歳	24歳	29歳	34歳	39歳	44歳	49歳	54歳	59歳	69歳	70歳以上
合 計	3,631	155	150	187	290	238	167	185	148	150	195	106
1. 自 宅	47.5	20.4	25.3	61.4	62.8	69.5	66.9	62.3	62.7	70.6	82.0	86.6
2. 会社や学校（持参した弁当）	18.8	47.3	29.1	14.1	11.4	8.1	16.0	12.6	13.2	7.8	4.4	1.2
3. 自宅（出前）	0.9	0.8	0.0	2.2	1.0	1.4	0.8	1.4	0.9	0.0	0.0	1.2
4. 会社や学校（出前，買った弁当）	6.2	10.7	11.5	3.6	5.0	3.8	3.0	4.3	4.2	2.8	1.7	0.7
5. 会社や学校の食堂	10.7	12.2	17.9	7.0	4.2	8.3	3.2	9.1	5.8	4.9	0.8	1.1
6. 立ち食いそば屋，ハンバーガー店	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0
7. 飲 食 店	8.1	0.7	7.3	1.4	5.4	2.0	3.3	4.7	4.4	7.7	3.9	2.8
8. 喫 茶 店	1.3	2.9	4.6	1.1	1.3	1.5	0.0	0.7	0.0	0.5	0.0	0.0
9. そ の 他	4.2	2.5	3.1	7.3	5.1	4.3	3.8	3.4	3.3	3.1	4.5	5.2
10. 昼食はとらなかった	2.0	2.4	1.2	1.8	3.4	1.0	3.1	1.7	4.7	2.6	2.6	1.2
11. わからない，無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

資料：「日本人の食生活¹³⁾」

(3) 外食産業総合調査研究センター「消費者の外食利用実態とニーズに関する調査¹⁴⁾」（昭和56年）の結果は，表13のようになっている。主婦を除く18歳以上の消費者の中で，昼食を毎日外食するものは60.0%である。先の調査でも壮年男子の昼食外食は60%をこえるので，大きい差はないと思われる。この調査は外食の回数についても調査しているが，週1回以上外食をするものは昼食では81.5%，夕食でも51.3%と外食するものが結構多いことを示している。

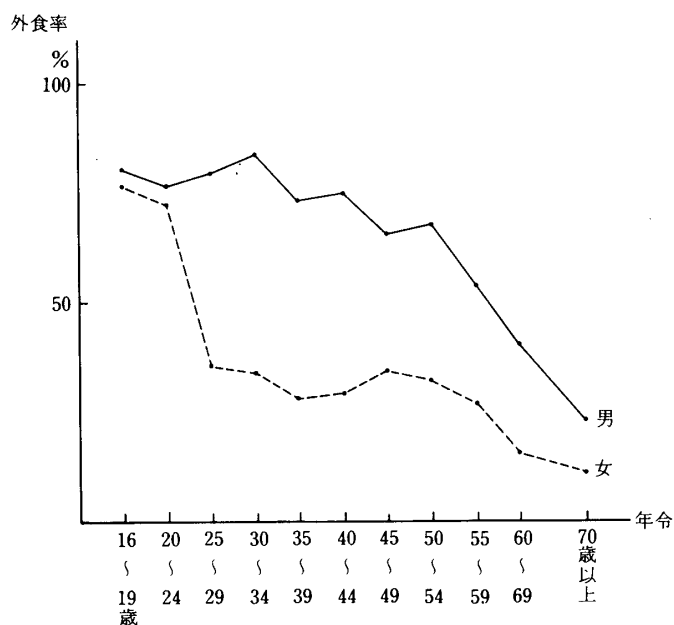


図5 性別、年齢別、自宅外で昼食をとるものの割合

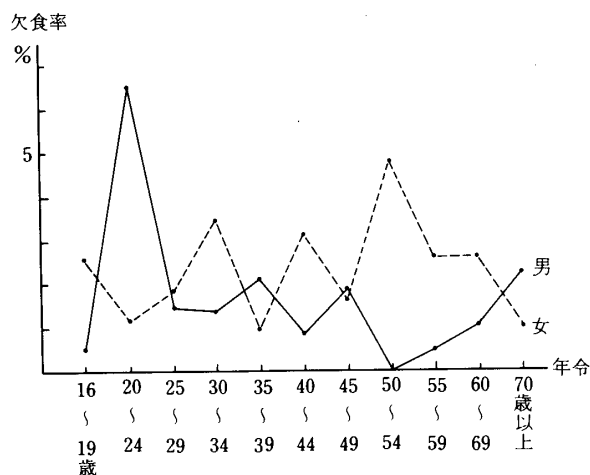


図6 年齢別、性別欠食率

表10 昼食の費用 (NHK調査)

回答	全 体	男の年齢											
		16 19 歳	20 24 歳	25 29 歳	30 34 歳	35 39 歳	40 44 歳	45 49 歳	50 54 歳	55 59 歳	60 69 歳	70 歳 以上	
合計	1,001	51	60	74	99	87	79	67	59	33	35	14	
1. 250円未満	14.9	24.4	17.6	7.2	9.9	7.8	11.9	13.8	5.8	10.9	11.4	0.0	
2. 250~500円未満	41.4	52.4	39.7	40.7	32.6	43.5	38.6	32.2	58.5	57.4	41.2	28.1	
3. 500~750円未満	21.6	12.6	26.9	25.8	31.3	21.8	26.7	34.4	20.0	23.2	15.5	24.0	
4. 750~1,000円未満	6.0	0.0	5.7	8.5	5.7	7.0	8.7	7.7	4.4	2.3	18.2	9.1	
5. 1,000円以上	3.3	0.0	2.2	1.8	4.7	3.0	1.6	3.0	6.3	2.3	3.6	36.4	
6. 自分では払わなかった	4.2	5.0	2.7	3.5	5.2	7.6	3.3	0.0	2.2	0.0	6.8	0.0	
7. 食券、会社もちだった	6.5	0.0	5.2	9.7	9.3	8.3	6.6	3.9	2.8	3.9	3.2	2.5	
8. わからない。無回答	2.2	5.7	0.0	2.8	1.3	0.9	2.6	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

回答	全 体	女の年齢											
		16 19 歳	20 24 歳	25 29 歳	30 34 歳	35 39 歳	40 44 歳	45 49 歳	50 54 歳	55 59 歳	60 69 歳	70 歳 以上	
合計	1,001	43	62	29	50	41	17	37	24	24	13	6	
1. 250円未満	14.9	30.3	19.8	26.8	17.0	21.0	18.6	27.5	29.9	19.1	0.0	0.0	
2. 250~500円未満	41.4	39.7	35.1	45.3	39.1	43.4	56.6	35.1	43.7	40.5	52.5	33.3	
3. 500~750円未満	21.6	8.7	16.3	11.6	19.3	9.1	22.8	24.8	10.8	14.0	23.3	0.0	
4. 750~1,000円未満	6.0	0.0	6.8	9.0	3.5	5.0	0.0	3.5	5.4	10.9	0.0	0.0	
5. 1,000円以上	3.3	2.7	2.1	0.0	3.3	2.0	0.0	0.0	4.8	5.4	0.0	21.2	
6. 自分では払わなかった	4.2	6.5	4.7	0.0	2.6	3.2	2.1	6.9	0.0	0.0	24.2	45.5	
7. 食券、会社もちだった	6.5	9.1	11.7	4.5	12.7	11.3	0.0	1.3	0.0	10.2	0.0	0.0	
8. わからない。無回答	2.2	3.0	3.4	2.6	2.6	5.0	0.0	0.9	5.4	0.0	0.0	0.0	

資料：表9に同じ

表11 朝昼夕別にみた外食状況（全国，男，年齢階級別）

(%)

		15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
総数		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
朝	3日間の外食回数	なし	97.5	89.4	89.1	89.4	91.5	92.9	95.6	97.5
		あり	2.5	10.6	10.9	10.6	8.5	7.1	4.4	2.5
		1回	1.5	6.2	6.4	4.7	4.3	4.3	2.4	1.5
		2回	0.3	2.1	2.3	2.1	1.9	1.4	0.6	0.4
		3回	0.7	2.3	2.3	3.8	2.3	1.3	1.4	0.6
昼	3日間の外食回数	なし	47.4	29.8	30.3	30.2	38.6	47.3	64.0	77.5
		あり	52.6	70.2	69.7	69.8	61.4	52.7	36.0	22.5
		1回	12.7	11.4	11.3	13.8	11.1	12.5	13.7	15.0
		2回	10.2	13.9	13.0	11.3	11.0	9.8	6.5	3.3
		3回	29.7	44.9	45.4	44.7	39.4	30.4	15.8	4.2
夕	3日間の外食回数	なし	86.1	67.1	62.5	67.5	73.8	80.2	85.6	90.9
		あり	13.9	32.9	37.5	32.5	26.2	19.8	14.4	9.1
		1回	10.8	16.6	21.1	19.7	17.1	14.1	10.6	6.7
		2回	1.6	8.1	7.9	6.2	4.6	3.7	2.3	1.3
		3回	1.5	8.3	8.5	6.6	4.5	2.0	1.6	1.0

朝昼夕別にみた外食状況（全国，女，年齢階級別）

(%)

		15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
総数		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
朝	3日間の外食回数	なし	98.1	95.2	97.1	97.4	96.9	96.4	96.3	97.6
		あり	1.9	4.8	2.9	2.6	3.1	3.6	3.7	2.4
		1回	0.9	4.1	2.6	1.6	1.9	2.4	1.8	1.7
		2回	0.7	0.2	0.2	0.6	0.7	0.8	0.9	0.1
		3回	0.2	0.5	0.2	0.4	0.5	0.5	0.9	0.6
昼	3日間の外食回数	なし	51.6	40.5	57.0	55.1	60.5	67.2	72.1	83.6
		あり	48.4	59.5	43.0	44.9	39.5	32.8	27.9	16.4
		1回	18.6	16.6	18.0	20.1	16.4	16.6	17.8	12.4
		2回	10.2	11.1	7.0	9.6	7.5	6.3	4.5	2.7
		3回	19.6	31.9	17.9	15.3	15.7	9.9	5.6	1.3
夕	3日間の外食回数	なし	85.5	69.5	79.7	83.5	87.1	88.0	89.1	94.1
		あり	14.5	30.5	20.3	16.5	12.9	12.0	10.9	5.9
		1回	10.9	20.9	15.6	13.5	10.2	8.7	7.9	5.0
		2回	2.5	6.6	3.5	1.9	1.6	2.3	1.4	0.6
		3回	1.1	3.0	1.2	1.1	1.0	1.0	1.6	0.4

資料：国民栄養調査 昭和57年

昼食の外食費用は表14のように500円以下が39.9%，500~1,000円が56.1%，1,000円以上が3.8%で，NHK調査より高いが定期的でないものもとらえているためであろう。

この調査はまた主婦の外食についても調べている。その結果は表15，16のようになっている。外食の回数は多くないが，昼食の外食費を見ると500円以下が28.3%，500~1,000円が42.7%，1,000円以上も12.8%と一般消費者より高くなり，日常の外食とたまの外食とのちがいとおもわれる。

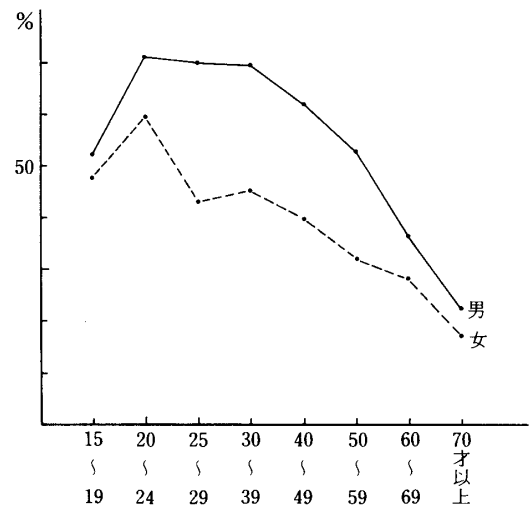


図7 性別，年齢別，外食ありの者の割合

表12 朝昼夕別にみた外食の内容別構成比（全国、世帯業態別）

(%)

			総数	そば・うどん類	すし	どんぶりの	カレーライス類	マカロニ類	パン類	その他の食和	その他の食洋
朝	全	国	100.0	8.0	3.3	0.8	0.5	0.3	36.5	49.9	0.8
		平均	100.0	9.9	1.8	0.9	1.8	0.9	23.4	60.4	0.9
		専業主婦世帯	100.0	9.1	—	—	—	—	36.4	54.5	—
	農家世帯	その他の世帯	100.0	10.0	2.0	1.0	2.0	1.0	22.0	61.0	1.0
		平均	100.0	7.8	3.4	0.8	0.3	0.2	38.0	48.7	0.8
		自営業者世帯	100.0	5.9	5.5	0.9	0.5	0.5	39.7	46.1	0.9
		常用勤労者世帯	100.0	7.7	2.8	0.4	0.3	0.1	38.0	49.7	0.9
		日雇労働者世帯	100.0	—	—	—	—	—	—	100.0	—
		その他の世帯	100.0	15.3	2.8	4.2	—	—	33.3	44.4	—
昼	全	国	100.0	26.5	4.0	8.9	7.3	1.1	5.7	34.5	12.0
		平均	100.0	27.0	6.1	9.6	5.5	—	5.5	40.0	6.4
		専業主婦世帯	100.0	24.8	8.9	6.9	7.9	—	6.9	32.7	11.9
	農家世帯	その他の世帯	100.0	27.5	5.4	10.2	4.9	—	5.1	41.8	5.1
		平均	100.0	26.5	3.8	8.8	7.5	1.2	5.7	34.2	12.4
		自営業者世帯	100.0	28.5	4.7	9.0	7.4	1.4	6.3	30.8	11.8
		常用勤労者世帯	100.0	26.0	3.6	8.6	7.3	1.2	5.4	35.5	12.4
		日雇労働者世帯	100.0	27.6	3.4	6.9	—	—	17.2	41.4	3.4
		その他の世帯	100.0	25.2	3.9	10.0	10.3	0.9	6.7	27.9	15.2
夕	全	国	100.0	15.1	14.7	6.6	3.8	1.4	1.2	40.1	17.0
		平均	100.0	21.3	12.6	2.9	2.9	0.6	0.3	52.9	6.6
		専業主婦世帯	100.0	26.7	26.7	1.3	1.3	—	1.3	40.0	2.7
	農家世帯	その他の世帯	100.0	19.8	8.8	3.3	3.3	0.7	—	56.4	7.7
		平均	100.0	14.6	14.9	7.0	3.9	1.5	1.2	39.1	17.9
		自営業者世帯	100.0	16.5	16.3	5.8	2.7	2.4	1.1	39.7	15.6
		常用勤労者世帯	100.0	13.9	14.1	6.9	4.3	1.2	1.2	39.6	18.8
		日雇労働者世帯	100.0	13.6	31.8	9.1	4.5	—	—	27.3	13.6
		その他の世帯	100.0	16.9	16.9	11.5	3.6	1.8	1.8	32.4	15.1

資料：国民栄養調査 昭和57年

(4) 国民生活センター第14回国民生活動向調査も主婦の外食を調査している¹⁵⁾。昭和58年10月、全国2,494世帯の主婦に対し5日間の外食状況を調査したものであるが、表17のように12.3%の外食を含め家庭外での食事は20.8%になっている。

主婦の外食では当然ながら被傭者がもっとも多く専業主婦は少い(表18)。しかし、外食費の支出については、共働き家庭と主婦専業主婦という単純な比較では問題をとらえきれないという指摘もある¹⁶⁾。表19にみるような被傭者の層別外食内容、図8のような年令別外食利用状況、先に見た女性の年齢別外食率を見ても、女性と外食とのかゝわりを正確にとらえることは今後の大きい課題であろう。

(5) そのほか、独身男女性、学生についての調査など小規模な研究結果があるが、^{17,18,19,20)}それらに共通なことはいずれもが三食とくに昼食の外食率の高さ、欠食の多さ、不規則不完全な食事など食生活の偏りを指摘していることで、若い世代の結婚前の食生活が今後の食生活にどう関連していくのかも外食を考える上で見逃せない検討課題である。

表13 一般消費者の外出行動 1) 外出回数

		朝 食	昼 食	夕 食	間 食	喫 茶	飲 酒
実 数 (人)	調 査 数	505	505	505	505	505	505
	1. ほほ毎日	7	303	17	19	116	14
	2. 2～3日に1回位	13	36	73	40	103	44
	3. 4～5日に1回位	13	33	91	33	55	57
	4. 6～7日に1回位	9	40	78	37	60	80
	5. 2週間に1回位	17	30	78	41	40	78
	6. 1カ月に1回位	24	19	71	35	37	88
	7. 1年に数回	63	19	40	35	27	61
	8. ほとんどない	277	12	25	192	33	46
不 明	82	13	32	73	34	37	
割 合 (%)	調 査 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	1. ほほ毎日	1.4	60.0	3.4	3.8	23.0	2.8
	2. 2～3日に1回位	2.6	7.1	14.5	4.0	20.4	8.7
	3. 4～5日に1回位	2.6	6.5	18.0	6.5	10.9	11.3
	4. 6～7日に1回位	1.8	7.9	15.4	7.3	11.9	15.8
	5. 2週間に1回位	3.4	5.9	15.4	8.1	7.9	15.4
	6. 1カ月に1回位	4.8	3.8	14.1	6.9	7.3	17.4
	7. 1年に数回	12.5	3.8	7.9	6.9	5.3	12.1
	8. ほとんどない	54.9	2.4	5.0	38.0	6.5	9.1
不 明	16.2	2.6	6.3	14.5	6.7	7.3	

資料：外食産業総合調査研究センター「消費者の外出利用実態とニーズに関する調査」（昭和56年度）

注）一般消費者（主婦を除く18才以上の消費者）を対象とした個人調査。

表14 一般消費者の外出行動 2) 1回当たりの平均使用金額

		朝 食	昼 食	夕 食	間 食	飲 酒
実 数 (人)	調 査 数	159	449	416	231	386
	200円以下	15	13	1	30	—
	200～500円	109	167	28	142	1
	500～1,000円	33	252	185	48	18
	1,000～1,500円	2	11	83	5	24
	1,500～2,000円	—	5	70	3	82
	2,100円以上	—	1	49	3	261
割 合 (%)	調 査 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	200円以下	9.4	2.9	0.2	13.0	—
	200～500円	68.6	37.2	6.7	61.5	0.3
	500～1,000円	20.8	56.1	44.5	20.8	4.7
	1,000～1,500円	1.3	2.5	20.0	2.2	6.2
	1,500～2,000円	—	1.1	16.8	1.3	21.2
	2,100円以上	—	0.2	11.8	1.3	67.6

資料：表13に同じ

表15 主婦の外出行動 1) 外食の回数

		朝 食	昼 食	夕 食	間 食	喫 茶	飲 食
実 数 (人)	調 査 数	424	424	424	424	424	424
	1. ほほ毎日	—	11	—	13	8	—
	2. 2～3日に1回位	—	36	5	12	16	—
	3. 4～5日に1回位	2	33	7	9	14	—
	4. 6～7日に1回位	2	61	29	20	44	2
	5. 2週間に1回位	—	107	69	33	79	9
	6. 1カ月に1回位	3	78	129	38	77	23
	7. 1年に数回	21	52	112	60	81	71
	8. ほとんどない	310	30	37	157	63	246
不 明	86	16	36	82	42	73	
割 合 (%)	調 査 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	1. ほほ毎日	—	2.6	—	3.1	1.9	—
	2. 2～3日に1回位	—	8.5	1.2	2.8	3.8	—
	3. 4～5日に1回位	0.5	7.8	1.7	2.1	3.3	—
	4. 6～7日に1回位	0.5	14.4	6.8	4.7	10.4	0.5
	5. 2週間に1回位	—	25.2	16.3	7.8	18.6	2.1
	6. 1カ月に1回位	0.7	18.4	30.4	9.0	18.2	5.4
	7. 1年に数回	5.0	12.3	26.4	14.2	19.1	16.7
	8. ほとんどない	73.1	7.1	8.7	37.0	14.9	58.0
不 明	20.3	3.8	8.5	19.3	9.9	17.2	

資料：表13に同じ

表16 主婦の外出行動 2) 一回当りの平均使用金額

		朝 食	昼 食	夕 食	間 食	飲 酒
実 数 (人)	調 査 数	424	424	424	424	424
	200円以下	3	2	1	17	1
	200～500円	29	118	8	108	1
	500～1,000円	8	181	95	41	4
	1,000～1,500円	1	22	78	2	2
	1,500～2,000円		13	53	4	22
	2,100円以上	—	19	100	3	74
	不 明	383	69	89	249	320
割 合 (%)	調 査 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	200円以下	0.7	0.5	0.2	4.0	0.2
	200～500円	6.8	27.8	1.9	25.5	0.2
	500～1,000円	1.9	42.7	22.4	9.7	0.9
	1,000～1,500円	0.2	5.2	18.4	0.5	0.5
	1,500～2,000円		3.1	12.5	0.9	5.2
	2,100円以上	—	4.5	23.6	0.7	17.5
	不 明	90.3	16.3	21.0	58.7	75.5

資料：表13に同じ

表17 主婦の昼食状況

問6 最近1週間の月曜日から金曜日まで（土・日を除く）の5日間のあなたの昼食についておたずねします。昼食の内容を次のように分けた場合、それぞれ何回ありましたか。合計が5回になるように、回数をお答えください。

	延べ回数	構成比	平均回数
	12,470	100%	—
・自宅で食べた	昼食用に調理した (ア) ごはんとおかず(ごはんは作りおきのものでよい)…… 4,861 (イ) パン, うどん, その他のめん類とおかず…………… 2,508 (ウ) その他()…………… 14	39.0	3.5
		20.1	2.4
		0.1	1.4
・自宅外で食べた…	調理はしなかった (エ) 残りものやできあいのお惣菜ですませた…………… 2,169 (オ) 出前や持ち帰り弁当などですませた…………… 109 (カ) 自宅で作った弁当を食べた…………… 923 (キ) 出前, できあいの弁当を食べた…………… 238 (ク) 勤め先の社員食堂で食べた…………… 777 (ケ) 外食をした…………… 525 (コ) 訪問先でご馳走になった…………… 140	17.4	3.1
		0.9	1.8
		7.4	3.8
		1.9	2.6
		6.2	4.5
		4.2	2.0
・食べなかった……………	192	1.5	3.1
・その他……………	14	0.1	3.5

資料：第14回国民生活動向調査結果報告書 P. 72

表18 主婦の年齢別・職業別にみた5日間同一パターンの昼食

(%)

	計	自 宅 で 食 べ た						自 宅 外 で 食 べ た					食 べ な かつ た	そ の 他
		昼食用に調理した			調理はしなかった			自 宅 で 作 っ た 弁 当 を 食 べ た	出 前 ・ でき あ い の 弁 当 を 食 べ た	勤 め 先 の 社 員 食 堂 で 食 べ た	外 食 を し た	訪 問 先 で ご 馳 走 に な っ た		
		ご はん と お か ず	パ ン の お か ず 類	そ の 他	残 り も の や でき あ い の お 惣 菜	出 前 や 持 ち 帰 り 弁 当	そ の 他							
計	2,494人 100.0%	523人 21.0%	123人 4.9%	—	204人 8.2%	7人 0.3%	137人 5.5%	25人 1.0%	139人 5.6%	32人 1.3%	7人 0.3%	26人 1.0%	2人 0.1%	
主 婦 年 令	～ 19	2人	—	—	—	—	1 50.0	—	—	—	—	—	—	
	20 歳 代	264	39 14.8	13 4.9	—	14 5.3	2 0.8	13 4.9	1 0.4	20 7.6	5 1.9	3 1.1	3 1.1	
	30 歳 代	829	145 17.5	39 4.7	—	61 7.4	2 0.2	36 4.3	10 1.2	35 4.2	13 1.6	1 0.1	7 0.8	
	40 歳 代	701	152 21.7	28 4.0	—	60 8.6	1 0.1	60 8.6	8 1.1	57 8.1	5 0.7	1 0.1	9 1.3	
	50 歳 代	479	116 24.2	22 4.6	—	47 9.8	2 0.4	25 5.2	6 1.3	23 4.8	7 1.5	2 0.4	4 0.8	
	60 歳 代	219	71 32.4	21 9.6	—	22 10.0	—	2 0.9	—	4 1.8	2 0.9	—	3 1.4	
主 婦 職 業	自 営 者	340	121 35.6	22 6.5	—	24 7.1	3 0.9	17 5.0	8 2.4	4 1.2	6 1.8	1 0.3	6 1.8	
	被 傭 者	355	38 10.7	5 1.4	—	5 1.4	2 0.6	69 19.4	14 3.9	92 25.9	18 5.1	—	2 0.6	
	内 職・パ ー ト	470	77 16.4	18 3.8	—	61 13.0	1 0.2	48 10.2	2 0.4	39 8.3	4 0.9	2 0.4	5 1.1	
	主 婦 専 業	1,320	285 21.6	78 5.9	—	114 8.6	1 0.1	2 0.2	1 0.1	4 0.3	4 0.3	4 0.3	12 0.9	
	そ の 他	9	2 22.2	—	—	—	—	1 11.1	—	—	—	—	1 11.1	

(注) 5日間同一パターンでない場合があるので構成比は足し上げても100%にならない。

資料：表17に同じ

表19 主婦（被備者層）が「自宅外で食べた」昼食

	総数	自宅で作った弁当	出前・できあいの弁当	社員食堂	外食	
被備者	管理職	3人	33.3	—	—	33.3
	専門技術職	38	13.2	28.6	50.0	15.8
	事務職	152	35.5	10.5	32.2	17.8
	労務職	124	32.3	8.9	28.2	18.5
	サービス職	38	13.2	18.4	23.7	13.2

資料：表17に同じ

ま と め

1. 外食はこの20年急速に増加し、エンゲル係数の減少にもかかわらず消費支出に占める割合、食費に占める割合ともに年々増加の一途をたどっている。

2. とくに供給側の外食産業の売上高の伸びは消費支出の伸びをはるかに上まわっており、その差がどのような形で存在するのかは、外食の実態をとらえるための今後の検討課題の一つである。

3. 外食増の背景には、近年の食生活の変化をもたらした個人や家族の生活及び意識の変化や、産業構造の変化という社会経済的要因が複雑に存在し、その要因を科学的に解明するのは困難な課題である。しかし、研究の動向を見るとその多くは産業側のマーケティング調査の形でなされており、生活者の側からのものは極めて少い。他の多くの生活面の変化と同じく、外食増も産業主導であることは否めない。生活者の側に立った要因解明は生活研究の大きい課題である。

4. 週日では、朝夕食で約10%、昼食で50%のものが外食をしている。この値はこの10年若干の増加はあるが他の外食指標の伸びほど大きくはないので、外食は週日以外で増加が著しいとみられる。

5. 週日の外食費は昭和56,7年で一回500円以下が多い。家計支出、外食売上の伸びから見て、こゝでも外食は必需的外食以外で大きくのびていると考えられる。

6. 外食の多い昼食について見ると、20歳未満では、男女ともに約80%が家庭外で食事をしている。男性ではそのまま持続して40歳以降加齢とともに減少するのに対し、女性では20歳以降40%と激減し、40歳代にまた増加して55歳以降減少するという二山パターンとなり、男女のライフサイクルのちがいや、日本型女子就労パターンとの関連が見られる。

本研究では、外食の一般的状況に関し既存の諸資料を検討し、その実態をふまえていくつかの課題を見出した。今後は外食に関する要因別研究を継続し、生活者の側に立った研究をすすめる予定である。

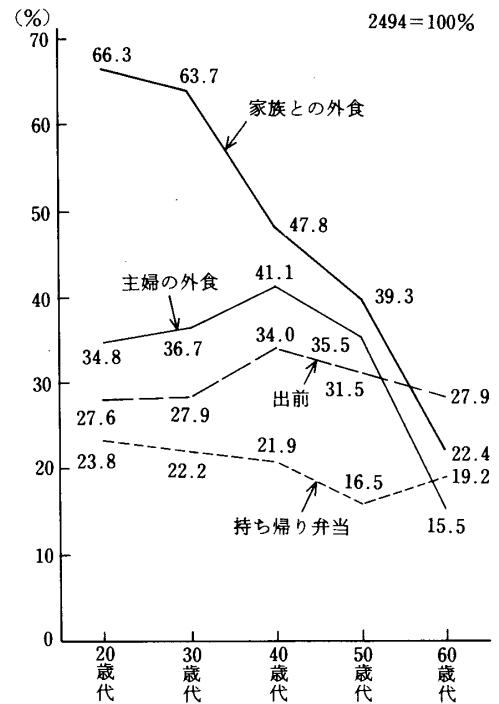


図8 主婦年齢別にみた、主婦の外食、家族との外食、出前、持ち帰り弁当の利用率

資料) 表17に同じ

注

1) 外食増の原因について、

外食産業問題研究会編「外食産業の現状と展望」p. 23 は、外食費増大の背景を

1. 所得水準の向上
2. 婦人の就業増
3. 核家族化の進展, 単身生活者の増加
4. 余暇時間増によるレジャー志向に伴う旅行, 外出等の増大
5. 飲食施設の整備充実とファーストフード, ファミリーレストラン等の進展

とし、

中小企業センター報告「外食産業の展開と今後の方向について」p. 7 は、外食産業の成長要因として

1. 所得の増大と平準化
2. 労働時間の短縮と余暇支払の増加
3. 婦女子就業者の増加
4. 消費意識の変化
5. モータリゼーション
6. 都市化, 郊外化
7. ニューファミリーの増大
8. 生活の洋風化
9. レジャー化

をあげているが、その他いずれも多様な要因をあげるものばかりである。

2) 食生活には「あとかたづけ」も含まれるが表の簡略化で除いた。しかし、いくつかの調査によると、食生活の中で「あとかたづけ」をもっとも面倒とする主婦も多く、その有無も外食化の一要因と考えられる。

3) 国民生活センター「国民生活」1984年 No.6 は「食の外部化を考える」のタイトルで特集をしている。

4) 外食産業問題研究会編 「外食産業の現状と展望」p. 18

5) 三井情報開発株式会社総合研究所「サービス経済化の進展と家庭構造の変容」p. 245 によると、「献立のテレホンサービスの利用者は4.3%、利用したいものは32.8%になっている。

また、毎日新聞昭和59年6月30日版によると、岐阜市では58年5月から減塩食の「日替り料理テレホンサービス」を実施し、全国から、月平均2,000件の利用者があるとのことである。

6) 山口貴久男「食の外部化」『国民生活』Vol 14, No.6, p. 4

7) 総務庁統計局「家計調査年報」1983年まで各年

8) 昭和37年までの家計調査は、調査対象や調査内容が若干異なるので同列に比較することはできないが、資料としてあげると下表のようになっている。

昭和	世帯人員	消費支出 円	食料費		エンゲル 係 数	外食率 %	消費支出 に しめる 外食費 %	
			加工食品	外食				
33	4.57	27,171	11,898	971	685	43.8	5.8	2.5
34	4.56	28,902	12,260	1,001	742	42.4	6.1	2.6
35	4.51	31,276	13,000	1,084	833	41.6	6.4	2.7
36	4.35	34,329	13,842	1,177	951	40.3	6.9	2.8
37	4.29	38,587	15,063	1,308	1,082	39.0	7.2	2.8
38	4.30	43,616	16,793	1,440	1,239	38.5	7.4	2.8

38年は37年基準で見た場合

9) 厚生省公衆衛生局栄養課編「国民栄養の現状」'71~'84年版 第一出版(株)

10) 通産省サービス産業研究会編「サービス産業の現状と課題'84」 通産政策広報社

通産省産業政策局, サービス産業企画調査官付編集 「サービス産業年鑑 1984」 東洋法規社
財団法人外食産業総合調査研究センター「外食産業統計資料集 1984」同センター刊 など参照

- 11) 山口貴久男「食のマーケティング」日本経済新聞社 1981年
山口貴久男ほか, 「外食サービス産業」東洋経済新報社
西武百貨店池袋コミュニティカレッジ流通産業研究所編「飽食時代の食品マーケティング戦略」ダイヤモンド社
1983年
外食産業問題研究会編「外食産業の現状と展望」地球社 1981年 など
- 12) 国民生活センター「国民生活」1980年1月号, p. 32~
- 13) NHK放送世論調査所編「日本人の食生活」日本放送出版協会 1983年
- 14) 前掲 外食産業統計資料集'84 p. 20~23
- 15) 国民生活センター「第14回国民生活動向調査結果報告書」同センター 1984年
- 16) 小林綾枝 “多就業世帯の生活と家計” 国民生活センター「国民生活研究」23巻3号P 34~57 1983年
- 17) 財団法人 食生活情報サービスセンター「ここを直そう若い単身者の食生活」同センター 1984年
- 18) レポート “ひとりぐらしの食生活” 国民栄養協会「食生活」1984年6月号
- 19) レポート “独身男性単身者の食生活” 同前「食生活」1984年4月号
- 20) レポート “大学生の食生活と「食糧危機」意識調査” 1980年4月号

(1984年10月31日受理)